

## 令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

### 吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ

#### 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

英語を用いて外国人講師や仲間と協働して自然体験活動を行うことで、表現力やコミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。また、外国人講師との交流を通して、外国文化に親しみを持つとともに、国際交流を楽しみながらコミュニケーションを図る。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

令和5年9月19日（火）～9月20日（水）1泊2日

##### (2) 参加者

###### ① 参加対象・人数

吉備中央町立吉備高原小学校6年生・9人

###### ② 参加者

吉備中央町立吉備高原小学校6年生・9人

##### (3) 講師等

アクラムジョノワ ディルヨラホン 氏（岡山国際交流センター ボランティア）  
ホー ジンス 氏（岡山国際交流センター ボランティア）

##### (4) 企画・運営のポイント

- ① 英語の活用については、「完璧でなくてもよい。」「少しでも英語でコミュニケーションを取れることを楽しむ。」ということ事前に伝え、英語に親しむことを第一の目的に設定した。
- ② レクリエーションでは、外国人講師と打ち合わせをし、母国の文化紹介や英語を使ったゲームで外国文化への興味を高めた。
- ③ 二人の講師がキャンプに慣れており、臨機応変に対応できるという実態を考慮して、子どもたちが興味を持つことができる様々な遊びを用意した。
- ④ 活動の内容を「関わり合えるもの」「知的な好奇心が満たされるもの」「協力が必要不可欠なもの」など、意図を持たせて組み合わせた。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

9月19日(火)		9月20日(水)	
9:30	開会式・オリエンテーション (Opening&Orientation)	6:15	起床(Wake up)
10:00	アイスブレイク(Ice Breaking)	6:45	掃除(Clean up)
12:00	昼食(Lunch)	7:15	朝のつどい(Morning gathering)
13:00	レクリエーション(Recreation)	7:30	朝食(Breakfast)
14:00	館内オリエンテーリング(Orienteering) 寝具説明・休憩(Bed making・Rest)	9:00	点検(Room inspection)
16:00	夕べのつどい (Evening gathering)	9:30	野外炊事(Outdoor cooking)
17:15	夕食(Dinner)	14:00	閉会式(Closing)
17:30	キャンドルのつどい (Candle night)		
18:15	入浴(Bath time)		
19:15	就寝(Bed time)		
21:30			

#### (2) 活動の状況



【オリエンテーション】



【アイスブレイク】



【レクリエーション】



【館内オリエンテーリング】



【キャンドルのつどい①】



【キャンドルのつどい②】



【野外炊事①】



【野外炊事②】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：82% やや満足：18%

##### (2) 参加者の声

###### ①児童

- ア. 日本と他の国の文化の違いを知って驚いた。
- イ. 講師の先生と英語でたくさん交流することができた。
- ウ. 外国のことについて興味を持ったし、もっと知りたいと思った。

###### ②教員

- ア. 講師の先生がとても親しみやすく、英語に楽しく触れることができ、充実した2日間でした。
- イ. 体を動かしたり、ゲームや料理をしたりして、いろいろな子が活躍できるようにプログラムが工夫されていた。

### (3) 成果

- ① アイスブレイクや館内オリエンテーリングで、活動の中で何度も繰り返し英語を使ったことで自然と身に付き、英語で伝えることができる満足感を味わうことができた。
- ② 上の「企画・運営のポイント」で記したように、外国の遊びなどを複数することができた。その中で英語に触れ、外国の遊びにも興味を持つことができたので、非常に有意義な時間になった。
- ③ 講師から海外の文化や現地のアクティビティを楽しく紹介してもらったことで、外国文化に親しむことができた。子どもたちから多くの質問があり、意欲的に活動に参加する姿が見られた。

### (4) 今後の課題

- ① 今回は講師の技量や人柄のおかげで成功したことが多々あったが、任せきりになったり連携をうまく取れなかったりした面もあった。うまくいったことに甘んじることなく、事業のねらいを共有し、より子どもたちが英語や外国の文化に親しむことができる活動を共に考える必要がある。
- ② 本事業では英語の技術向上ではなく、英語や外国の文化に親しむことをねらいとしている。そのため、職員が英語を楽しんだり完璧でなくても一生懸命に話そうとしたりする姿を見せなければならなかった。そのためにも、他国の文化についての最低限の知識を学んだり英語を使うことができるように事前に準備をしたりする必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治